日本におけるキリスト教の歩み

その１ 伝来から繁栄期-4

安土桃山時代 1568～1600

戦国時代 1493～1615

本能寺の変 1582年5月

カブラル布教長

布教長カブラルとヴァリニャーノ巡察師の間で方針相違から大きな溝が発生。ヴァリニャーノは、宣教師として人としても大名達から評判良く、一方カブラルは敬遠された。1580年ヴァリニャーノは有馬晴信に洗礼。大村の大村純忠は、多数の領民達の回心を確認。同時期織田信長は、賓客としてヴァリニャーノを京都に招いた。一方、オルガンチノ神父は、安土にセミナリヨと教会を建てた。

心労から病を患った布教長カブラルはインドへ帰還。代わってコエリョ神父が最初の副管区長に任命。ヴァリニャーノ巡察師は、コエリョ神父と他の宣教師達に大切な任務を告示。①宣教師は日本語を習得し日本文化を身につけること。②日本人司祭の育成に力を注ぐことであった。

コエリョ副管区長→ヴァリニャーノ巡察師

ヴァリニャーノ巡察師の日本宣教計画は全ての宣教師へ通告。計画は、宣教師や伝道士達も快諾。特に実りの成果は、セミナリヨ建設であった。1580年春、有馬の日野江城下に、次は安土に建設された。三つめ山口建設は毛利に阻止された（1587年禁教令後、安土と有馬は合併。転々とした後長崎のみ）。安土出身パウロ三木、有馬出身セバスチャン木村、他ディオゴ結城、ペトロ木部、トマス金鍔、レオナルド木村等がいる。天正少年使節四人はセミナリヨ在学中に選抜された。

1580年6月、長崎をイエズス会宣教師の知行地として大村純忠から移譲。しかし宣教師等は、その土地は必要あればいつでも返還するとした。また宣教活動で有馬と自由に往来可能な茂木も追加。その結果、長崎、茂木の町は、知行地としてイエズス会に与えられた。但し、この知行地に関してヴァリニャーノ巡察師は、常に領主は大村純忠であることを強調した。何故なら大村純忠は、ポルトガル人に長崎を植民地として与えたものではなかったからである。

1582年2月20日(天正10年)、ヴァリニャーノ巡察師発案で九州のキリシタン大名大友義鎮(宗麟)、大村純忠、有馬晴信の名代として遣欧少年使節団をローマに派遣した。派遣された四人の少年は、有馬セミナリヨで学んだ正使；伊東マンショ、千々石ミゲル、(正使の共)原マルチノ、中浦ジュリアン、他教師2名、そしてヴァリニャーノ巡察師と若い宣教師メスキータの総勢８名で長崎港を出発した。1584年リスボンに上陸後、1585年3月やっとローマに到着。戴冠式に特別参加後、イタリア各地を巡り1586年スペイン、ポルトガル経由帰路1587年インド・ゴア着。ゴアでヴァリニャーノ巡察師と再び合流しマカオへ、そこで豊臣秀吉の禁教令発令を知る。彼らは二年間帰国の機会を待った。